

令和7年度 第3回木更津市史編集委員会議事録

1. 会議名 令和7年度 第3回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 令和8年3月9日(月)～3月19日(木)
3. 開催方法 書面開催
4. 出席者 木更津市史編集委員 10名
成田 篤彦 編集委員長、實形 裕介 副委員長、小沢 洋委員、
石和田 秀幸委員、盛本 昌広委員、大関 真由美委員、駒 早苗委員、
島立 理子委員、安田 貴之委員、松本 明子委員

5. 報告事項

第1号 『木更津市史編さんだより 第10号』発行について
(木更津市史編さん部会調査等進捗報告)

第2号 『木更津市史 史料編8 近現代1』の刊行について

第3号 『木更津市史研究第8号』の刊行について

第4号 『木更津市史編集基本構想及び基本方針』の改正について

第1号 『木更津市史編さんだより 第10号』発行について
(木更津市史編さん部会調査等進捗報告)

委員意見

(松本委員)市史編纂の進捗状況や、調査速報の記述があり、市史完成が待ち遠しくなる内容でした。

(大関委員)編集お疲れさまでした。各部会が取り組んでいる内容、市民へ共有したい内容について、具体的に知ることができ、よい内容だと思います。

デジタルアーカイブについては、市民向けにもう少しとつきやすい文章だということ感じました。「陰陽図」と書かれてすぐに内容が浮かぶ方は少ないと思います。スペースの都合はあると思いますが、一枚でも写真が入っていると良いと思います。

(小沢委員)各部会の活動報告およびレポートにより、それぞれの部会の途中経過、並びに主要な課題となっている事柄がわかりました。とくに古代部会における「鹿津郷」と勝下の地名、国勝神社の神輿を海岸まで担いで来たこととの関係性、雷塚遺跡の「勝」の墨書土器との関連など興味深く読ませて頂きました。

第10号のように市史編さんだよりを部会報告という形で刊行するのも意味のあることだと思いました。

(成田委員)編さん作業などで多々、ご苦労があったと思いますが、考古、古代、中世、民俗部会の報告は全てとても興味深い内容で、史料編・通史編の完成が楽しみです。

自然部会の部会活動について、追加します。

自然部会は自然編資料をもとに、写真、図を多用し、内容を精選し、簡潔に表現し、市

民に親しみやすい自然編総論の早期発刊を目指して、執筆・編さん作業を続けています。現在、目次の概要が決定し、原稿執筆を開始して、徐々に原稿が集積しつつありますが、頁数の割り当てが確定したわけではありません。また、以下の課題があります。

- 1 産業関係の原稿をどの程度掲載するか？
- 2 表紙、章表紙、図版などのデザインは依頼できるのか？
- 3 写真提供者への対応をどうするのか？
- 4 索引の作成など

(實形委員)『編さんだより』の巻頭で、最低一つは編さん部会等の個人からのタイムリーな投稿が必要です。また、『木更津市史編さんだより』の紙媒体での発行部数及びホームページでの閲覧数は、どのくらいでしょうか。市民等の編さん事業への興味・関心は、高まっていますか。

事務局説明

市史編さんだよりについてご意見ありがとうございます。デジタルアーカイブについての表記は大関委員のご意見を参考に検討いたします。自然部会のご意見については部会会議で再度一緒に検討していければと考えます。市史編さんだよりは紙での発行部数は500部程度となっております。ホームページでの閲覧数については公式ホームページ全体の閲覧数となりますので市史編さんだよりを見た回数というのはちょっとカウントすることができていません。編さん事業の興味関心の高まりについては市民カレッジと共催で開催した木更津市史公開講座を見るところでは大変好評であり興味関心が高まっていると感じています。

第2号 『木更津市史 史料編8 近現代1』の刊行について

委員意見

(駒委員)御存じの方もおられると存じますが、先月23日に池田順近現代部会長がご逝去されました。10年の長きにわたり、部会委員を引っ張って下さいました。『県議会史』や『千葉市史』での作業・編集を通し、私たちにも様々な知識を与えて下さいました。

昨年の2月頃より微熱が続き、4月に入院され7月下旬に退院し、12月部会のzoom会議にもほっそりとされながらも元気なお声で出席されていました。突然の急変でただただ、驚き、刊行間近であったため先生の担当されたところを皆で手分けして作業を進めました。刊行が若干遅くなったこととお詫びします。

最後の最後まで「市民の人たちにわかりやすく伝えるため」に心を尽くした池田先生に倣い、史料編纂と丁寧な解説を心掛け、皆様にお届けしたいと存じます。

(大関委員)池田先生のご尽力が、しっかり形になったこと、本当によかったと思います。近現代部会の皆様もとても大変だったと思います。お疲れさまでした。

(小沢委員)執筆・関係者の方々のご尽力に敬意を表します。「近現代1」は序文・目次では「昭和初期」までとなっていますが、昭和何年頃までを区切りとしているのでしょうか。歴史的事象の具体的な目安などがあれば教えてください。

(實形委員)まず、池田順近現代部会長の訃報に接し、心より哀悼の意を表します。また、『木更津市史 史料編8 近現代1』の年度内刊行を実現された近現代部会委員及び事務局の尽力に感謝します。

目次のところですが、構成は編・章・節となるのでしょうか。また、頁数は、きちんと直っていますか。

『史料編8 近現代1』は、当初は地区別の構成でしたが、一般的な内容構成となり、通史編とも連続して良いと思います。

収録史料は、地域的にある程度の配慮した構成でしょうか。まったく収録史料がない地区は見られないでしょうか。

史料編に不可欠の「凡例」は、どうなっていますか。

(成田委員)池田順近現代部会長のご逝去の報に接し、心からお悔やみ申し上げます。同時に、史料編8 近現代1を発刊された部会委員の皆様と事務局に深い敬意を表します。ありがとうございました。

事務局説明

史料編8ではおおむね昭和6年の満州事変を区切りとしてそれ以降は戦時下として近現代2で取り上げることになっています。木更津市での出来事としては伊藤勇吉町長の町政における木更津と真舟の合併、木更津港の改修、震災からの復興のあたりとなります。構成は1編、2編、3編にそれぞれ章と節があるものとなっています。収録資料の偏りですが、分野によって偏りはあるものの、全体ではすべての区域を掲載するようにしています。凡例は目次の前に掲載されます。

第3号 『木更津市史研究第8号』の刊行について

委員意見

(小沢委員)第8号には拙稿を掲載させて頂きましたが、須恵器出土古墳の位置図を付載しなかったことなど、原稿提出後、不備を自覚しております。なお今回の原稿は、刊行予定の『史料編2 考古2』を補うものものとして作成いたしました。

(實形委員)『市史研究』として編さん部会の調査・研究の成果が歴史編・民俗編・考古編と各分野にまとめられており、今後の史料編・通史編の刊行につながり、良いと思います。これまでの『市史研究』の販売実績は、どうでしょうか。紙媒体での刊行は、好評でしょうか。

(石和田委員)木更津市史研究については部会へ執筆依頼をする場合、急な依頼にならないように、年度ごとに早めに計画を出してもらえると助かります。

事務局説明

市史研究の販売実績ですが、現在創刊号は100冊程度、2号から5号までは50冊程度、6号と7号は20冊程度となっており、媒体による売り上げの違いはありません。執筆依頼については計画的に行うよう留意いたします。

第4号 『木更津市史編集基本構想及び基本方針』の改正について

委員意見

(大関委員)細かいことで申し訳ありませんが、新旧対応表の「新」の方で赤字を反映すると「自然編は総論1冊の主な内容は別表3のとおりとし、資料編1冊編集します。」

となるかと思いますが、若干文章がわかりにくい気がします。

「自然編は総論1冊と資料編1冊を編集します。総論の主な内容は別表3のとおりとします。」くらいではいかがでしょうか。

(小沢委員)基本構想及び基本方針の中に、下記のような文章(下線部分)を追加・修正した方が良いのではないかと私考しますが、如何でしょうか。記載のような点が『新版』作成の目的の一つにもなっているかと思えます。事務局の意見をお聞かせ願います。

2.『新版』の編集の目的

『新版』の編集の目的は以下のとおりとします。

- (1) これまで、(中略) しかしながら、『郷土誌』『旧版』『富来田編』は刊行から相当の年数を経過しており、『木更津のあゆみ』は、自然・文化・歴史をコンパクトにまとめたもので、全てのデータを網羅したものではありませんでした。とくに考古関係においては、『旧版』『富来田編』の刊行以後、開発事業に伴う発掘調査によって膨大な資料が増加し、新たに判明した事柄も少なくありません。

東京湾に面して立地し、古くから海上交通の要衝として栄えてきた木更津市は、国際的な交流都市として、多くの資料が残されています。こうした資料を最新の学問成果に基づいた全国的視点に立った『新版』の編集を進めます。

(實形委員)①アの通史編の構成ですが、旧「原始・古代編」を新「考古」「古代」と、旧「近代編」「現代編」を新「近現代」と訂正で良いですか。

②ウの民俗編は、4つの地区ごとの報告書をなくし、1冊にまとめた刊行となることで良いですか。

③エの自然編の訂正をそのままにすると「資料編1冊編集します。」と文章がおかしいので、「資料編1冊を編集します。」と助詞「を」を補いますか。

(盛本委員)中世の刊行に関しては今後詰めていきます。

事務局説明

木更津市史編集基本構想及び基本方針の改正について通史編の構成については原始古代編を考古と古代の2冊に、また近代編・現代編を近現代1冊にという訂正で良いかという点についてはその通りでございます。民俗編が4つの地区ごとの報告書ではなく一冊にまとめた刊行となることもその通りでございます。その他のご指摘の点につきましては改正にあたって修正の対応を行います。

事務局説明

委員の皆様よりいただきました意見等を踏まえ、次年度以降も対応して行きたいと考えております。

上記、令和7年度第3回木更津市史編集委員会の書面開催に伴う議事録について、確認したことを報告します。

令和8年3月25日

議事録署名人 木更津市史編集委員会
委員長 成田 篤彦